

## 【胃がん地域連携パス運用手順】

胃がん地域連携パスについて、次のように運用させていただきますので、ご協力よろしく  
お願いいたします。

### 1. 対象患者

胃がん地域連携パスの対象患者さんは、原則として次の要件を満たした方です。

- ① 広島大学病院で手術を施行（初回）
- ② 進行度I期胃がん症例

### 2. パス導入時の連絡

患者さんに地域連携パス導入の同意が得られれば、担当医またはパス担当者より連携医療機  
関の先生へ電話にて連携の依頼をさせていただきます。

### 3. 広島大学病院への定期受診など

術後1ヶ月、6ヶ月で広島大学病院へ受診していただき、腫瘍マーカーを測定します。その後は術  
後1年目から1年ごとにCT、上部消化管内視鏡、腫瘍マーカーを測定し、転移再発の診断を行  
います。

### 4. 連携医療機関の先生にお願いする診療

- ① 診療の間隔や内容については、胃がんの共同診療計画書をご参考にいただき、適宜、血  
液検査を見ながら、腹部症状・術後障害などの観察をお願いします。  
また、原則的に以下の項目についても連携医療機関の先生をお願いします。
- ② 薬剤の投与・変更・追加
- ③ 高血圧・脂質異常などの他の合併症に関する管理

※採血データなどの診療情報を当院へ送付頂きますようお願いいたします。その際、貴院におい  
ては、月1回を限度として『がん治療連携指導料300点』を算定することができます。（パス導入時に  
がん治療連携計画策定料を算定したものに限り、がん治療連携計画策定料の算定有無に  
ついては、連携開始時に患者さんごとに当院よりご連絡いたします）

### 5. パスの期間

術後5年です。5年経過後は地域連携パスを終了とし、基本検診、職場検診や人間ドックを有効  
利用することとします。

### 6. バリエーション

- ① 胃がんの再発や転移により連携困難と判断された時
- ② 他病の症状悪化により連携困難と判断された時
- ③ 患者事情による広島大学病院もしくは連携医療機関への定期受診困難時
- ④ 死亡